

会 議 録

1 会議名

令和4年度第9回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・リフレ上越山里振興株式会社における雇用関係助成金の不正受給について（公開）
- ・地域独自の予算の事業一覧について（公開）

【協議事項】

- ・「地域活性化の方向性」について（公開）

3 開催日時

令和5年2月27日（月）午後6時30分から午後8時13分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 坪田 剛（会長）、金森幸雄（副会長）、安達麻美、齊藤徳夫、
佐藤寿美子、佐藤峰生、田村 隆、荷屋和夫、平野コトミ、
水寫豊秋、横田正美（欠席者1名）
- ・施設経営管理室： 竹下室長、小関係長
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、
千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：横田委員に依頼

議題【報告事項】リフレ上越山里振興株式会社における雇用関係助成金の不正受給について、担当課へ説明を求める。

【施設経営管理室：竹下室長】

- ・挨拶

【施設経営管理室：小関係長】

- ・資料No.1-1「令和5年2月10日開催 全員協議会資料」、資料No.1-2「令和5年2月10日開催 全員協議会資料 別冊」に基づき説明

【坪田会長】

説明に対し質疑を求める。

【田村委員】

雇用調整助成金と令和2年4月からはコロナによって緊急雇用安定助成金の2つがあると思うが、今の説明だと令和2年4月から令和4年7月の間で、この2つを不正受給したとの説明だが、くわどり湯ったり村は、もともと冬季は営業を停止していたと思うが、その頃は雇用調整助成金を使っていないのか。

【施設経営管理室：竹下室長】

休館していた時期が、令和2年4月の半ばから、全国的なコロナ対策の中で1か月ほど休館させていただいた部分がある。その時期のことでよろしいか。それ以前のことか。

【田村委員】

それ以前にも、冬季は休館している。その頃は、関係ないのか。

【施設経営管理室：竹下室長】

それは使っていない。

【田村委員】

令和2年から令和4年ということは、決算期で言うと2期、3期ぐらいあると思う。その間で、税理士が入って、会計監査があると思うのだが、こういう不正を見抜くことは不可能なのか。

【施設経営管理室：竹下室長】

私どもも、専門家にも相談した。会社が労働局へ申請する書類、3,900万円を不

正受給した形になるが、その申請した書類に見合うような、例えば、シフト表や勤務表が揃えられた中で、会社が適正な書類として労働局へ申請して、労働局も審査が終わったという書類もある中で、なかなか見抜けなかつただろうと話をされている。

市としても当然、第3セクターとしての関わり、また、指定管理者としての関わりから、その責任の部分は非常に気にしている。その点については、弁護士の調査結果をもとに、市としても顧問弁護士にそれらの資料とこの間の市と会社のいろいろなやりとりも付けて弁護士の見解を求めている。弁護士からは、「市の職員による補填金の審査等に当たっては、会社による不正行為を知る由もなく、かつ、雇用関係助成金についても労働局の審査決定が行われ、実際にその当該月に支給された実額が資料に記載されている中、資料上の基礎数値まで踏み込んで分析調査等を行うことは、およそ不可能であり、提示された資料からは、不正は見抜けないと判断する。以上のことから、市による業務上の過失はなく、市の責任はないものとする。」というような見解をいただいている状況である。

【田村委員】

そうすると、収入として、約4,000万円のお金が多くなっているのではないかと。それに対しては、申請書類とそれが合致しているから、簡単に言うと、「特に異常はない」ということか。個人的に言うとな「その程度で済むのか」という感想である。

【施設経営管理室：竹下室長】

おっしゃられることは十分承知している。一方で、例えば、令和2年度においては、その施設の年間の休館日数が40日程度である。私どもと会社とのいろいろなやりとりの中では、例えば、冬季休館や臨時休館をさせていただき中で、その40日のほかに休館日数が、130日ほどあったような状況である。また、さらに営業時間短縮や実際の取り組み自体もしていただいた経過を踏まえた中で、一定程度の雇用関係助成金の受け入れというものの自体は、当初から想定されていた、市としても一定程度の金額は、会社がしっかり休館したり、時短営業をしたのであれば、当然一定程度の金額は得られるだろうと考えていた。

【水嶋委員】

本当に悲しい事件である。この不正を行った2人が、どうしてそれをしなくてはいけなかったかも考えないといけないのではないかと思う。一部報道を聞くと、ある人から「今後絶対に赤字を出すな」とプレッシャーをかけられて、こういうことに及んだとい

う話もある。事実がどうなのかはわからないが、そういう報道もなされている。会社で言えば、中間管理職の悲哀が見えるような感じがする。

今後、地域活性化の方向性の中でも、くわどり湯ったり村の活用の話が出てくると思う。それを生かしていくためには、大きなエネルギーが要ると思うので、皆さんから協力してもらわないと本当に立ち直る術がなくなると思うので、市からも今まで以上にご協力を願いたいと思う。

【施設経営管理室：竹下室長】

本当の意味での関与者2人の動機は、しっかり判明していない状況だと思っている。私どもも新聞報道等の記載は見ている。コロナ禍を受け、担当者として、真っ先にコロナ禍を理由に施設を閉じてはいけないと考えた。そういった状況の中で、私達担当課としても市の財政部門等に、コロナ禍でも赤字が出ないように、しっかりとした指定管理料の補填とか、そういったものができるような制度設計は尽力させていただいて、「結果として、コロナ禍の期間中に施設の収支が赤字になる場合は、市が黒字になるまでしっかり指定管理料としてみます」といった話もさせていただき、赤字で会社が潰れる、施設が休館するという状況にならないような中でコロナ禍を迎えた部分があった。その認識の部分なのか、新聞報道等にあるように本当に経営健全化を第一に考えられた結果なのか、それは推測できるところではない。一方で、担当課としては、施設のためを思ってというところがあるのかと思っている。市長からも、指定管理者としての対応の部分はともかく、その地域にとって施設がいかに大事なものであるのかを、十分に考えて早期の再開をするようにという指示は出ている。また、新たな指定管理者も、昨年、サウンディング型市場調査で、民間事業者といろいろ協議をする中では、ぜひ、応募してみたい、参加してみたいという事業者が複数いる状況なので、一定程度市が指定管理料を出す中で、指定管理者の応募はあるのかと思っている。そういった声をしっかりと聞き取る中で、早期に指定管理者の募集をさせていただいて、新たな指定管理者による指定は、段取りよく進めさせていただければと思っている。ただ、今、決定事項ではないが、サウンディング型市場調査の中で複数社応募があったのだが、その人たちが全国的な指定管理者制度そのものがしっかり機能しているのか、私も最近テレビ番組を見て、指定管理者制度は行政にとってよい制度であって、参加する事業者にとっては、よい制度ではないのではないかと感じた。行政は、黒字が出れば指定管理料を下げ、ワーキングプアではないが、行政が主導的な赤字体質の会社を生み出しているのではないかと

制度に対する疑問も寄せられている。複数社協議をさせていただいた民間事業者からは、指定管理者制度だとしっかりとしたサービスが提供しにくい。儲けるところは儲けて、地域に還元できるところは還元する。そこは、民間の創意工夫の中でやっていただくのが、一番施設を有効的に活用できると思う。そういった話もあった。逆に指定管理者制度という制度の中での支援ではなくて、純粋な民間事業者さんでやっていただく部分を、例えば赤字部分を補填するとか、駐車場をしっかり市が除雪するなど、施設自体の維持管理草刈等に、また、地域の皆さん総出で協力するとか、そういった民間事業者との関わりの中でよりよい経営をやっていただくような、そういった手法も視野に入れていかなければいけないのかなと思っているので、そのようなことも踏まえた中で、新たな指定管理者の募集を検討させていただきたいと考えている。

【水嶋委員】

いろいろな知恵を出されて、なるほどと思う部分もある。何をおいても、市長の地元であり、通年観光を公約にしているので、市長ももっと自分が先頭に立ってアピールしていけるような施設にしていてもらいたいと思う。

【施設経営管理室：竹下室長】

本日いただいた意見を市長にも確実にお届けさせていただきたいと思う。

【金森副会長】

経営のことについてはよくわからないが、くわどり湯ったり村は、指定管理者は公募を行う。手を挙げてくださる民間事業の方がいる。その中で、4月の再開は、ほぼ大丈夫という見通しでよいのか。

【施設経営管理室：竹下室長】

先ほど説明した中で、言葉足らずの部分があった。指定管理者の募集をすると、最低でも2か月ぐらいはかかると思っている。3月の中旬から公募しても、5月中旬から5月末にならないと、指定管理者の指定は議会の議決が必要なため、議会を挟まないと指定管理者を指定できない。そういった手続きがあるので、新たな指定管理者は、しっかり募集させていただくが、くわどり湯ったり村の再開については、現時点でリフレ上越が施設の指定管理者である。関与者2人についての厳正なる対処というものは別にあるが、不正事件に関わっていない従業員もいるので、その方々と市と協力しながら、また、地域の皆様にもご協力をいただきながら、4月の再開は、リフレ上越として一部機能の再開を早期に目指していきたいと考えている。

【坪田会長】

この地域協議会では、常々、地域活性化については、くわどり湯ったり村の名称や、温浴施設が出てきている。くわどり湯ったり村の温浴施設が、この地域の活性化の中心母体、シンボルであるということは明白である。少しでも早い解決策を講じながら、ご尽力を賜れば有難いと思っている。

他に質疑を求めるがなし。

【施設経営管理室：竹下室長】

今後、まだ課題は山積みだが、まず施設の早期再開は確実に進めていきたいと思っている。皆様からもご協力をお願いしたい。

— 施設経営管理室 退室 —

【坪田会長】

次に【報告事項】地域独自の予算の事業一覧について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

先日、正式に事業名が公表され、(仮称)が外れたので今後は地域独自の予算ということで説明させていただく。

- ・資料No.2「令和5年度地域独自の予算」に基づき説明

【坪田会長】

説明に対し質疑を求めるがなし。

次に【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

本日は、地域活性化の方向性の作成に向け、これまで出された意見と構成要素を基にキャッチフレーズを検討していただきたい。開催案内に同封した、谷浜・桑取区地域活性化の方向性のキャッチフレーズ(表題部)についてを使用し、各委員からキャッチフレーズについて文章や入りたいフレーズなどを考えてきていただいたかと思うので、そちらをお話いただきたいと思う。

委員より意見を出していただいた後、キャッチフレーズの検討をお願いしたい。

また、前回、佐藤峰生委員から質問のあった、名立区の地域活性化の方向性の具体的な取組についてだが、本日、参考として配布した名立区地域協議会の資料のとおりである。推進目標と構成要素と、その下に、恒久平和への願いと人材育成、名立の森と水資源を活かす。北陸街道など地域の宝の活用、人と地域がささえあう輝く未来ということ

で、いくつか事業が挙げられている。こちらについて、実現に向けて取り組んでおり、いくつかの事業は、令和5年度地域独自の予算にも提案したとのことである。

【坪田会長】

各自考えてきたキャッチフレーズを順番に発表していただきたい。

- ・谷浜・桑取区の四季折々が風光明媚で歴史・文化も豊富で自他共に安心して暮らせる地域です。

【安達委員】

- ・谷浜・桑取地区の豊かな自然や伝統文化を生かして、人の和が繋がる地域づくりをします。

【齊藤委員】

- ・谷浜・桑取地区の自然が生み出す環境を活用し、いろいろな創造を深め地域の活性化活動に取り組みます。

【佐藤寿美子委員】

- ・谷浜・桑取区の魅力、自然を取り入れた地域づくりをいかして、絆と安心して楽しい生活を目指します。

【佐藤峰生委員】

- ・谷浜・桑取区の伝統・文化と郷土愛、自然の恵みをいかして、絆を強め、地域の魅力に磨きをかけ、未来につなげる誇りを持てる地域づくりをします。

【田村委員】

- ・谷浜・桑取区の山、川、海に学びながら、ゆっくりと育む人財づくりの里にします。

【荷屋委員】

- ・谷浜・桑取区の伝統行事をいかして、地域の子どもたちが思い出すまちづくりをします。

【平野委員】

- ・谷浜・桑取区の海、山、川の豊かな自然の中をいかして、地域をつなぎ楽しく安心して暮らせるまちを目指します。

【水嶋委員】

- ・谷浜・桑取区の伝統を継承し、自然、史跡を来訪者に発信し、地域の人々の絆を大切に育てていきます。

【横田委員】

・谷浜・桑取区の豊かな自然と伝統行事、史跡、文化の継承、イベントなどを通じて、地域の魅力を発信し、地域みんなが楽しめる取組み、つながりを深める活動を推進します。

【金森副会長】

・谷浜・桑取区の自然や文化をいかして、全世代が生き活きと暮らせる地域づくりを目指します。

【坪田会長】

キャッチフレーズの協議をさせていただく。やはり、自然、山、川、海、人間性、歴史・文化という文言が多いと感じる。谷浜・桑取区のよい面がそこに集中して現れているのかと思う。このキャッチフレーズをどういう形でまとめるか意見を求める。

【中村センター長】

事務局で次回までにこれをまとめたり、たたき台のような形でまとめて来られればと思う。「これ残したい」とか「これがよい」という意見があれば、発言いただきたい。

【坪田会長】

皆さんの意見を機械にかければ、一番多く出ているテーマを集計できると思うが、そうもいかないなので、どうしても削りたくない重点的なものがあれば、発言願いたい。

【佐藤峰生委員】

なかなか皆さんの意見をまとめるのは大変だと思う。先ほど、発表したキャッチフレーズは名立区と被らないような表現にした。名立区は、豊かな自然と歴史文化という表現である。谷浜・桑取区の皆さんから出ているものは基本的に同じだと思う。同じ表現にならないように言い回しを変えただけである。豊かな自然と歴史文化と同じ表現にならないように、谷浜・桑取区はまとめたほうがよいと思う。どの表現を使うか皆さんから意見を出してもらえればと思う。

【坪田会長】

今の佐藤峰生委員のおっしゃるとおりである。かしこまらずに気楽に考えてもらいたい。キャッチフレーズなので、それに皆さんが賛同できるものであれば、共通認識の中で進めていきたいと思う。

【水嶋委員】

名立区と環境は一緒である。しかし、構成要素を全て入れようとすると長くなる。ただ、名立区と何が違うかも入れないと埋没してしまう。

【佐藤峰生委員】

私の案を押すわけではないが、谷浜・桑取区の名立区と違う所はどこなのかを盛り込んだ。郷土愛という表現であり、ふるさとを愛するという気持ちである。今、谷浜・桑取区に住んでいる方が、いろいろな取組を行うにあたって、ふるさとを愛するという気持ちを表に出したいという気持ちと、名立区と表現を変える意味で、歴史文化を、伝統文化という表現にした。あとは、豊かな自然という表現を自然の恵にした。キャッチフレーズとして挙げるにあたって表題部の言い回しを皆さんでまとめていただければと思う。

【坪田会長】

28の全地域協議会がまとめるものだから、同じものにしたくないということである。谷浜・桑取区として軸というか、一つプライドがあるということだと思う。

【田村委員】

雑談だが、谷浜・桑取区になくて名立区にあるものはコンビニである。他の13区を見ても大体コンビニがどこに行ってもある。コンビニはとても便利だが、なくても生活できれば、頼らなくてもよいものである。

【水島委員】

確かにこのキャッチフレーズは大事だが、それに固執していると進まないから、この後の内容を実施に向けていくほうが大事である。

【坪田会長】

センター長が言ったとおり、今、皆さんが発言したものをまとめた中でキャッチフレーズのたたき台的なものを作ってもらい、次回また皆さんに選択肢がある中で協議してもらったほうがよいと思う。皆さんの言っていることは、それぞれ一言ずつ入るかもしれないし、入らないかもしれない。キャッチフレーズの決定的な協議は、来月に持ち越すことでよろしいか。

(賛同の声)

では、事務局に次回、3案ぐらいの提示を依頼する。

【千田主任】

- ・資料No.3 「『地域活性化の方向性』における地域団体との意見交換について（案）」に基づき説明

【坪田会長】

意見交換の時期、対象団体について協議したいと思う。

まず、対象団体について意見を求める。

【荷屋委員】

17団体が載っているが、その人たちから出てもらわないと、意見がまとまらないと思う。それを重要視したほうがよいのではないか。

【佐藤峰生委員】

参考の欄に上がっている団体に加えて、町内会長連絡協議会は必要だと思う。それと、公民館関係者を呼んでいただきたい。私と佐藤寿美子委員が公民館の運営委員なのだが、先週会合があり、公民館の講座とかみえちご山里ファン倶楽部の活動が具体的に重なっている部分もあり、この二つの活動母体は、企画実践する場でもある。先ほど絆を強めてという表現をした。各団体の結合する部分を増やすという意味合いで、町内会長と公民館は、ぜひ入れていただきたい。

【坪田会長】

逆にこの資料の中で、ここまでは必要ないのではないかという部分があれば、ご意見を聞かせていただきたい。

【水嶋委員】

谷浜・桑取地域振興協議会は町内会長連絡協議会と同一なのでこの他には、谷浜地域づくり協議会、桑谷里神楽伝承会、かみえちご山里ファン倶楽部の方々は、それなりの思いがあるだろうから、まずは、そのぐらいから始めてみてはどうか。

【坪田会長】

確かに、これだけの担当団体を呼んで意味があるのかどうかは定かではない。もちろん、皆さん関係ないということではないが、谷浜・桑取区の中にある団体なので、必要不可欠の部分があるが、団体を呼んで意見を求めて共通認識を持つには、これだけたくさんの団体はいらないのではないかという意見もあるが、いかがか。

【佐藤峰生委員】

私は逆である。この意見交換会はできるだけたくさんの団体の代表から集まっていたいて、決起集会的な意味合いだと思う。キャッチフレーズを最終的にそこで決める。「このキャッチフレーズで皆さん谷浜・桑取区を元気にしましょう」と、具体的にどうするかというのはその先の話である。できるだけたくさんの団体の人たちに、皆で手をつないで頑張りましょうという場なので、それで、資料に挙がっていない団体があれば、ど

んどん出してもらったほうがよいと思う。

【坪田会長】

意見がそれぞれ出た。確かに皆に知らしめ、歩調を合わせていくという部分も必要不可欠な部分だし、ある程度の団体に納得いただき、それをまた回覧という方法で、こういうことに決定したという報告の仕方もあるかと思う。どちらの方向がよいのか意見を求める。

【金森副会長】

いくつもの団体を集めてやると、まとめが難しいのではないかと。社会福祉協議会の活動を長浜小学校で同じようにしたことがあった。あの時も、各団体が大勢集まったが、なかなかまとめきれなかった。今回も多分そうなると思う。まして、キャッチフレーズを、例えば、この地域協議会が主導で各団体にこういうキャッチフレーズを示すと、特に大々的に活動しているかみえちご山里ファン倶楽部あたりは、「私たちは独自のキャッチフレーズに基づいてやっている」といった意見が出そうな気がする。だから、あまり大勢の団体を一堂に集めるというよりも、単独で、谷浜地域づくり協議会の皆さんと話をしてみましよう。その次に桑谷里神楽伝承会の皆さんと話をしてみましようというふうに時間がかかるかもしれないが、そのほうが最終的には、それぞれの団体の特色が出された活動ができるのではないかと。いろいろな分野の団体が、一堂に集まるとなかなか独自カラーというのを出しにくい状況になるのではないかと。

【坪田会長】

内容については、5番に書いてある地域活性化の地域協議会の検討状況、キャッチフレーズの構成要素等についての情報共有及び意見交換ということなので、その内容を踏まえた中での団体の集め方になるかと思う。

【水嶋委員】

たくさん意見が出ればよいが、出なければ意味がないし、出たら今のキャッチフレーズと一緒に、どれに絞ったら良いかという議論になるので、その先を考えると、実施する事業はあれもこれもできるわけではないだろうと思う。何か一つの事業をやるとしたら、それに少し絡めていかないと、やれる人間もいないし、予算もないということになれば、金森副会長が言われたように、なるべく絞って進めていったほうが進めやすいのではないかと思う。

【佐藤峰生委員】

意見交換の目的をどこに置くかによって違ってくると思う。私は先ほどの決起集会という表現をした。最初は、谷浜・桑取区にある各種団体の代表の方から集まってもらって、「地域協議会で谷浜・桑取区を元気にするために、こういう取組を今後していったらどうですか」ということの話し合いをすることで、これをすぐにやるとか、誰がやるとかというところまでいく必要はないわけである。「やりたいと思います。皆さんぜひ協力してください。」と、そういう場だと思う。それで、「意見がある人は言ってください。今後の地域協議会の中で、その意見を参考にして取組を進めていくためにどうするかを参考にさせていただきます」ということでまとめればよい。それから、次の段階に行ったときには、どの団体を呼ぶかということだと思う。その入口の議論だと思う。

【坪田会長】

今それぞれの考え方があろうと思うが、どちらかに決めないと話が進まない。

【田村委員】

今、案が出ている団体に声掛けすればよいのではないかな。キャッチフレーズも見てもらって、意見を求めたらよいのではないかな。それによって、また我々が肉付けしていけばよいのではないかなと思う。

【水嶋委員】

いろいろ意見あると思うが、私たちも方向性とは言いながら、どの方向へ行くか決まっていない中で、それを示さないで、「何をやるのか。誰がやるのか」と言われても、団体のほうでも、参加できるとはなかなか言えないのではないかな。ある程度団体の意見で聞いて、それによって私たちがある方向を決めて、それに参加できる団体を絞っていったほうがよいのではないかなという気がする。

【佐藤峰生委員】

資料の「5 内容」を見てほしい。何のために集まるか。団体の皆さんに、地域活性化の方向性について地域協議会でこれまで検討した経過について説明する。つまり、それが意見交換の目的である。2番目は、地域活性化の方向性のキャッチフレーズと構成要素について、地域協議会だよりを全戸に配ってあるので、皆さん目を通していただいているはずである。団体の代表としての立場では、意見はまた違う。それを出してもらおうという2つの目的での集まりだから、できるだけたくさんの団体から来ていただきたい。そこで何かを決めるということではない。そういうことになればできるだけたくさんの人から可能な限り来てもらったほうがいいわけである。

【横田委員】

意見が出ればよいが、先ほど言ったように、最初はこういうキャッチフレーズの案が出て作った。そこまではいい。そのあと、皆さんから具体的に、今やっている活動に対して問題点などを含めて取り組んでいる団体の方を呼んで、お金の問題は何かないかと、少し突っ込んだ話を個別に持っていくほうが、より意見が出やすいのではないかと。

【佐藤峰生委員】

1回目をどうするかという話である。

【横田委員】

深い意見が個別にいくつあっても話し合いができるわけがない。後で日程を調整して意見を伺うことにして、1回目は地域活性化の方向性の地域協議会での検討状況を示し、意見をもらい、それで終わりでよいということか。

全町内会に声を掛けるのであれば、振興協議会や桑取会の役員、そういう方だけを呼んで、ある程度、絞った格好でよいのではないかと思う。そこで意見云々まで、深くまで出ればよいが。

【佐藤峰生委員】

出なくても何か意見を聞くことが目的ではない。こちらから活動を説明して、皆さんに協力要請することが大事だと思う。この地域協議会委員の皆さんの考え方を、皆さんから聞いてもらう場である。

【水嶋委員】

今まで、私は地域協議会に関心がなかった。地域の皆さんも関心がないのではないかと。もう何十年も地域協議会をやってきて、今までどうだったかはわからないが、傍聴に来る人が少ないことを見れば、地域協議会に意見を言う人はまずいない。

【坪田会長】

今の意見は今までの結果論的な部分で発言していると思う。各団体を集めた時に、ほとんど意見が出ないままで終わった。実際あったことを踏まえた考え方であり、佐藤峰生委員のこれからこの地域の活性化のために、こういうことをやるんだという一つの意識づくりを求めるのだから、広く参加を求めることも当然だと思う。

【齊藤委員】

今の話のやりとりでいくと、とりあえず、この参考に出ている各団体と皆さんの知っている団体に案内を出す。来るか来ないかは、その団体の考え方なので、それでよいの

ではないか。

【横田委員】

声掛けは広くでよいということであれば、声掛けに差がつかないようにすればよいと思う。

【坪田会長】

その方向でまとまってきた。そうすると、この中に足したい団体等々があれば、ここで足していかないと、また事務局でも案内を出すのに困る。公民館と谷浜・桑取地域振興協議会とかみえちご山里ファン倶楽部でよいか。あと、個々の町内会は削ることによいか。

【田村委員】

提案いただいた団体すべてに案内を出してよいのではないか。

【坪田会長】

出てくる人はそれなりの興味があって出てくれ、意思に基づいて意見を出したりする。今までの議論を踏まえると、ここに網羅されている部分と公民館、そして、かみえちご山里ファン倶楽部を増やしていただくという形でよろしいか。

(賛同の声)

あと、時期だが、よりよい時期に開催したいと思っている。いつ頃がよいか。5月だと農繁期に入ってくる。4月の半ば過ぎ、月末ぐらいと考えてよろしいか。

(賛同の声)

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

- ・次回協議会：3月27日（月）午後6時30分から

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp 1

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。